

冬を彩る関西学院のクリスマスイベント

12/4(月) クリスマスツリー点灯式からスタート

関西学院は12月4日、西宮上ヶ原・神戸三田・西宮聖和の3キャンパスで同時にクリスマスツリー点灯式を行い、約1カ月にわたって、クリスマスイベントを開催します。一般の方々にご参加いただける主なクリスマス行事は以下のとおりです。

詳細は、HP「2017年 関西学院のクリスマス行事」まで。

【クリスマスツリー点灯式—アドベントを迎えて—】

12/4(月) 18:30~19:00 西宮上ヶ原(中央芝生)と西宮聖和(2号館前)、18:30~18:50 神戸三田(アカデミック commons 前)

【ランバス演奏会「クリスマスコンサート」】

12/5(火) 17:00~18:10 西宮上ヶ原(ランバス記念礼拝堂)

【オルガン音楽の泉】

12/6(水) 12:50~13:20 西宮上ヶ原(中央講堂)

【大阪梅田キャンパスクリスマス クリスマスの調べ【ハンドベルクワイア】】

12/6(水) 17:00~17:30 アプローチタワー1階 ガレリア広場

【大阪梅田キャンパスクリスマス クリスマス礼拝】

12/6(水) 18:00~18:40 アプローチタワー14階 1405教室

【オルガンコンサート「サウンド・オブ・クリスマス」】

12/8(金) 16:50~19:00 西宮上ヶ原(ランバス記念礼拝堂)

【関西学院聖歌隊ファミリーコンサート】

12/9(土) 14:30~16:00 西宮上ヶ原(ランバス記念礼拝堂)

【クリスマス オルガンコンサート】

12/11(月) 17:00~18:00 神戸三田(ランバス記念礼拝堂)

【Gospel Christmas Live-関西学院ゴスペルクワイア“P.O.V.”-】

12/11(月) 18:30~19:30 西宮上ヶ原(ランバス記念礼拝堂)

【ハンドベルクワイア クリスマスコンサート】

12/14(木) 18:30~19:30 西宮上ヶ原(ランバス記念礼拝堂)

【関西学院聖歌隊キャンドルライトサービス】

12/15(金) 18:30~19:30 西宮上ヶ原(ランバス記念礼拝堂)

【関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール】※有料

12/18(月) 18:30~20:50 ザ・シンフォニーホール(大阪)

【バロックアンサンブル クリスマスコンサート】

12/18(月) 18:40~19:30 西宮上ヶ原(ランバス記念礼拝堂)

【関西学院クリスマス礼拝(西宮聖和キャンパス)】

12/20(水) 17:00~18:30 西宮聖和(メアリー・イザベラ・ランバスチャペル)

【関西学院クリスマス礼拝—音楽で祝う降誕—(西宮上ヶ原キャンパス)】

12/21(木) 17:00~18:30 西宮上ヶ原(中央講堂)

【関西学院聖歌隊「メサイア」コンサート】

12/23(土) 18:30~20:00 西宮上ヶ原(ランバス記念礼拝堂)

次号 2017年12月8日(金)発行予定

アフガニスタン農村の自己統治制度を解明
国際開発学会で奨励賞

林 裕・人間福祉学部助教

著書「紛争下における地方の自己統治と平和構築 - アフガニスタンの農村社会メカニズム -」(ミネルヴァ書房)で、国際開発学会奨励賞を受賞しました。「アフガニスタンは第二の母国。報道では表に出てきにくい現地の生の声を世界に届けるのが私の使命」と話します。

著書は、アフガニスタンの農村で営まれている一般市民の生活を中心に紹介。地域社会では、伝統的な「民主主義」の理念が根付いており、国家に頼らない自己統治制度が確立されています。中央政府や選挙制度の再建など国家レベルでの平和構築だけでなく、地方における住民の自己統治に目を向け、生かしていく重要性を指摘しています。



現地住民との交流(左から6番目が本人)

研究はフィールドワークが中心です。老若男女問わず話を聞き、それぞれの人生の物語をまとめます。「元兵士が多く、みんな辛い経験をしているのに、人情に厚く、前向き。人なつっこい一面もあり、人間的な魅力がある。研究の対象者でありながら、『子どもが増えたんだってな。おめでとう』『お前、少し見ない間に白髪増えたな』など、何でも語り合える仲になった」。長年の調査で、信頼関係もできました。

最初にアフガニスタンを訪れたのは2003年。NGOに所属し、地雷撤去、元兵士の社会復帰、戦争未亡人支援に携わりました。その後、外務省や国際協力機構でも勤務。国際援助に携わり、約8年、アフガニスタンの平和構築に協力してきました。ナイジェリアでも約2年間、従事しました。

「国際開発の研究は欧米が盛んで、欧米寄りの価値観になることもある。日本人だからこそできるアジアからの視点で議論に加わり、この分野のさらなる発展と被支援国の発展に貢献したい」と意気込んでいます。



研究はフィールドワークが中心です。老若男女問わず話を聞き、それぞれの人生の物語をまとめます。「元兵士が多く、みんな辛い経験をしているのに、人情に厚く、前向き。人なつっこい一面もあり、人間

的な魅力がある。研究の対象者でありながら、『子どもが増えたんだってな。おめでとう』『お前、少し見ない間に白髪増えたな』など、何でも語り合える仲になった」。長年の調査で、信頼関係もできました。

最初にアフガニスタンを訪れたのは2003年。NGOに所属し、地雷撤去、元兵士の社会復帰、戦争未亡人支援に携わりました。その後、外務省や国際協力機構でも勤務。国際援助に携わり、約8年、アフガニスタンの平和構築に協力してきました。ナイジェリアでも約2年間、従事しました。

「国際開発の研究は欧米が盛んで、欧米寄りの価値観になることもある。日本人だからこそできるアジアからの視点で議論に加わり、この分野のさらなる発展と被支援国の発展に貢献したい」と意気込んでいます。

現地住民へのヒヤリング